

佳作

北かん山のハイキング

大阪府 大阪教育大学附属池田小学校二年 石川 博太郎

ぼくは今年の夏休みにかん国に行ってきました。前回行った時に南かん山じように行ったので、今回は北かん山に行くことにしました。北かん山は、ソウルを中心から地下でつとバスでいける高さ八百三十六メートルの山で、ハイキングにおすすめの場しよだそうです。

朝十時半から、かぞくといっしょに山にのぼりはじめました。さいしよは、けいこくぞいの道でとても景色がよく、どんどんすすんで行くことができました。しかし、と中のはしをこえたところから、大きな岩がごろごろした道で、足をあげるのがしんどくなってきた、それとあまりにもあつかったののでくじけそうになりました。

「もうむりや。上まであがらんでいいやん。」と文くを言いながら歩いていると、おねえちゃんが

わらいながら、

「もうちよつとだからがんばろう。」

と言ってくれました。もうちよつとでつくならがんばろうと思いましたが、なかなかつきませんでした。やっとのことでちよう上につくと、日本の山とちがって、ちよう上は一まい岩のだん岩せつべきのところでした。上からのけしきはきれいで、がんばってのぼってきてよかったなと思いました。

下山してかえりのバスにのった時、とつぜん見知らぬおじいさんに手をつかれました。びっくりしているとおじいさんがせきをぼくにゆずってくれました。でも、ぼくはもうせきをゆずってもらうような年ではないので、

「いいです。」

と言って立ち上がろうとしたら、おじいさんがかん国語で、すわってなさいといってくれました。その後もたくさんしゃべりかけてくれたけど、ぼくはかん国語が分からないのでちよつとこまりながらニコニコしていました。小さいのに、山にのぼってきてえらかったね、と言ってくれているようでした。ぼくがおじるバスでいについた時、ぼくはゆうきをだしておじいさんに、

「カムサハムニダ。」

と、かん国語でありがとうと言いました。おじいさんはニッコリわらいながら大きく手をふってくれました。なんだかぼくの心があたたかくなりました。

今回のりょ行で、かん国の人たちは、あまりフレンドリーではないと思っていましたが、そうではないことがわかりました。山のぼりの中ですれちがう時にあいさつをしあったり、道をゆずった時はえがおでおれいをいったりと、日本とまったく同じでした。山のぼりは大へんだったけど、いろいろな人とふれあえてしあわせな気もちになりました。